



技能伝承 ものづくり は人づくり

広島工業大学専門学校
機械工学科長 竹田 睦

はじめに

広島工業大学専門学校の機械工学科は、中四国地域にある専門学校の中において唯一の学科として平成15年4月に開設し、今年で15年目を迎えます。開設当初から、ものづくり産業の技術の高度化、変革に対応できる技術者・技能者を育成し、現場のリーダーとして産業の発展に貢献できる人材育成を目標に取り組んできました。今回はその取り組みの中で特に力を入れてきた技能伝承について紹介したいと思います。

ものづくり業界を取巻く環境

近年、イノベーションが急速に進展し、技術がめまぐるしく進化する中、ものづくりの業界を取巻く環境は大きく変化しています。3D-CADや3D-Printerは当然のこと、VRやIoTといったインターネットを利用した技術の導入やAIの活用も進められ、ものづくりは多方面において高度化しています。

一方で、日本は少子高齢化社会を迎え、若年労働者が減少している中、製造業においては人材不足と並行して技術・技能の伝承が大きな課題となっています。

企業実務者などの参画のもとで開催された教育課程編成委員会でも、こうした社会変革に対応したものづくり教育への転換についての議論がありました。そこで、産業界が望む高度な専門力と、生産現場で指導的役割を担うことのできる能力を兼ね備えた技術者・技能者の育成を目指したカリキュラムの在り方についての検討を現在継続的に進めているところです。

ものづくりは人づくり

製造業の人材育成に関してよく出てくる言葉に「ものづくりは人づくり」があります。この言葉を人材育成の根幹として現場の教育を行っている企業も多く見受けられます。これは、より良いものづくりを実現するためには、“人”が何よりも重要だと考えられているからです。

良いものづくりをするためには、“人”が欠かせません。ほかの経営資源(モノ・カネなど)と異なる点は、人は意欲と能力にばらつきはあるものの、教育・経験によって成長・発展させることが可能であり、これらの能力を伝え合うことができるということです。

ものづくりは組織として多くの人との協力・協働で成り立っています。組織として継続的により良いものを生み出して行くためには、技能を持った人の技を組織に伝承していく必要があります。しかし、この伝承は容易なことではありません。技能の伝承はコンピュータやお金では解決できない部分が多く存在するからです。



技を持つ人は後継者に対して、現場のルールや作業方法は勿論のこと、ものづくりの楽しさや社会的な意義、さらには伝承した技能を自分なりに改善した技など、文字で残すことが難しいことも伝承することができます。技を伝承する“人”、伝承を受ける“人”のレレーションシップの中で技能伝承がなされ、より良いものづくりのできる組織が形成されていきます。

機械を操作できる人、与えられた仕事を確実にこなす人も必要ですが、それだけでは本当の意味での「ものづくり」はできないのではないのでしょうか。

先輩から後輩へ技能伝承

「ものづくり」は、ただ単に物を作り出すだけではなく、多くの知識と経験、

そして多くの人の協力がないと成り立ちません。

本校の機械工学科では、技能習得の方法として専門学校ならではの特徴的な取り組みを行っています。機械加工に必要な技術・技能を学ぶ際、教員からの指導だけではなく、技能士の資格を取得した先輩が後輩を指導する取り組みを行っています。

先輩は指導する力やリーダーシップ力を、指導を受けた後輩は、教わることの大切さ、お互いの知識と経験を伝達し合い、刺激し合うことで、技術の向上が図れる仕組みになっています。また、こうした取り組みを通して、社会人として必要とされている、コミュニケーション力や協調性の資質も同時に養うことができ、人間力の育成にも繋がっています。

専門学校は2年課程という非常に短い期間で学ぶ必要があります。技能習得の近道は、とにかく体験を通して経験を積むことだと思います。近道とはいえそれは簡単なことではなく、時間もかかり、またそれに立ち向かう気力も必要です。こうした時間をできるだけ多く確保できるよう教員も一緒に取り組んでいます。

技能検定への取り組みと成果

技能検定は、労働者が有する技能を一定の基準に基づき検定し公証する国家検定制度です。厚生労働省令で定める職種ごとに等級に区分されており、実技試験と学科試験で実施されています。合格すると「技能士」と称することができます。

表1 職業能力開発関係表彰

日付	表彰名
平成26年11月 5日	広島県職業能力開発協会長表彰(技能検定優良事業所)
平成27年11月20日	中央職業能力開発協会長表彰(技能検定優良事業所)
平成29年11月 8日	広島県知事表彰(技能検定優良事業所)

本学科も前節の取り組みを通し、機械加工職種に挑戦しています。対象の作業としては、普通旋盤作業、フライス盤作業、数値制御旋盤作業、マシニングセンタ作業の4作業に受験できる体制を整えています。

過去5年間(平成24~28年)では、2級に7名、3級に103名が合格しました。技能検定への取り組みをはじめから、150名を超える3級技能士が誕生し、2級技能士も二桁の大台に乗せることができました。こうした取り組みが評価され、技能検定を主催している職業能力開発協会から表彰を受けることができました。(表1)



おわりに

この記事執筆中に卒業生から「技能検定1級に合格しました!」と連絡がありました。1級の合格証書は厚生労働大臣名で公布され、まさに上級技能者の仲間入りの証となります。このような便りに、とても嬉しく、感慨深いものがありました。

ものづくりにとって、技能を持った“人”、その技能を受継ぐ“人”は、組織にとっての大きな財産であり、技能伝承をいかに継続できるかが最も大切なことであると私は感じています。

今後も、ものづくり産業の一翼を担えられるよう教育に取り組んでまいります。皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

